

## 2. 除虫菊と「はなひり」との混合 剤に関する研究

中島 稔、松本 鹿藏、大野 稔、武居 三吉

北海道及び本州の山地に自生する「はなひりのき」*Leucothol Grayana Maxim.* を除虫菊と混合乳剤とした場合の殺虫力を検討し現今不足せる除虫菊節約の一手段たらしめんことを目的として本研究を開始せり。

「はなひりのき」乾燥葉を粉碎し之を熱湯で数回反覆抽出し、その抽出液を蒸発乾廻して黒色粉末を得、之を「はなひり熱水抽出物」とする。之を除虫菊乳剤と種々なる割合に混合した試験液を作成しその殺虫力を比較検討せり。

第 1 表

乳 剤	除虫菊乳剤 (ピレトリン) 1.5%	はなひり 熱水抽出物	水
第1号	100%	0%	0%
第2号	50	30	20
第3号	10	30	60
第4号	0	30	70

第1表に示す試験液を用ひて「うりはむし」成虫に就いて殺虫試験を行つた所100倍液では第1号、第2号、第3号は何れも100%の殺虫率を示し第4号は5%であつた。又「さくらけむし」「さるはむし」「うりのあぶらむし」等に就いても殺虫試験を行つたが何れも大体全一の結果を得、従つて「はなひり」単独剤では殺虫力は弱い

が之を除虫菊と混合乳剤とした場合は除虫菊を減少してもその殺虫力の低下は防げられる様である。

第 2 表

乳 剤	除虫菊乳剤 (ピレトリン) 7.5%	はなひり 熱水抽出物
第1号	100%	0%
第2号	100	5
第3号	100	10
第4号	100	20

更に第2表に示す試験液を作成して之を「さるはむし」成虫に就き濃度を500倍、1000倍、1500倍、2000倍、3000倍、5000倍と変へて殺虫試験を行つた所何れの場合でも第1号より第2号、第3号、第4号の方が殺虫率高く、5000倍液では第1号の殺虫率は52%であるのに反して、第2号では98

%を示せり、以上の実験に依り「はなひり」を除虫菊と混合乳剤として用ふる場合は可成り有効であり、従つて除虫菊節約の一手段たり得る事が明白となつた。